



明確な方針 & ぶれない市政運営を

常総市の過去・現在・未来を通した市政方針を高杉市長に問う
金子晃久議員

議員

高杉市長が就任して2年が経過しようとしているが、市長が何をやりたいのかが私自身、明確に見えていない。旧水海道市の歴史を紐解く中で、常総市が今後誇るべきものを未来に生かしていくような政策をお示しいただきたい。

市長

水海道は50年前は県内1、2を誇る商業都市であったが、昭和55年を機に工業都市へと産業構造の転換を果たした。これからはその方向で行きたい。

議員

商業から工業への温故知新とすることで、これからのようにそれを生かしていくのか。

市長

これからは農商工のバランスを取る方向に転換しなくてはならない。工業と共にまち中への商業施設の誘致、高付加価値化とマーケティングに力を入れた農業政策を進めていきたい。

議員

交通や医療など常総市だけで

完結できないようなサービスを広域連携の形で実現していくべきと考えるが、その姿勢は。

市長

特に公共交通サービス面で非常に有効な政策だと思う。

議員

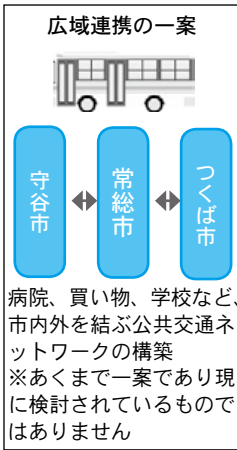
市長は図書館日本一を掲げているが、読書教育日本一なのか、ハード面での日本一なのか。

市長

読書教育日本一というソフト面で考えている。

議員

中心市街地の活性化もそうだが、どういうまちづくりをしていったらいいのかというのが分からない、おぼろげなる政策がこの2年間掲げられてきた。市長には残りの2年間、明確な方針を出した上で、ぶれないで突き詰めていってほしい。



いつになったらできる西幹線道路



西幹線整備事業について尋ねる 坂巻 文夫議員



西幹線道路（鹿小路細野線）
坂手工業団地北側付近

議員

買収できなかった場合の法的措置はどう考えているか。

都市建設部長

基本的には任意買収を考えているが、土地収用法に基づく用地取得も一つの手段であり、慎重に見極めていきたい。

議員

3年工事延長をした場合の工事費用とその要因は。

都市建設部長

工期延長の主な理由は、用地買収の遅れと軟弱地盤箇所の工法変更である。事業費は当初の約37億円から45億円となり約8億円の増額となった。

議員

最初から軟弱地盤だということとは分かっていたのだから設計が甘かったのではないかと。

都市整備課長

当初の調査では把握できず、実際に工事をしてみたいとわからないところがあった。また、国の補助金を入れた事業であり、過大な資金の投資はできないため、あとで補助金を返還することなどないような方法を取った。

議員

地域住民は早期開通を心待ちにしている。努力していただきたい。